

地域がん診療連携拠点病院 <川崎市立井田病院からのお知らせ>

い だ や ま

第81号 井田山

基本理念「井田病院は、自治体病院として、市民から信頼され、
市民が安心してかけられる病院づくりを目指します。」



当院ホームページ・X (旧Twitter) をご覧ください♪

年頭のご挨拶

病院長 伊藤 大輔



明けましておめでとうございます。

旧年中は格別のご厚情を賜わり、心より感謝申し上げます。

ロシアのウクライナ侵攻に始まった東欧の戦火が収まらない中、ハマスによるイスラエルとの泥沼の闘いも加わり、平和を希求する人々の願いの儚さに、諦めにも似た思いにとらわれた令和5年でした。

年が改まり令和6年は甲辰の年ということで希望をもって迎えた正月ですが、能登半島大地震・羽田空港の大事故とこれまで記憶にないほど衝撃的な年始となってしまいました。被害に会われた多くの方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、前回の井田山第80号でご案内した通り、井田病院は災害拠点病院・DMAT指定医療機関として訓練してまいりましたが、神奈川県からの要請を受けて1月11日にDMAT隊5名が車両2台に分乗し能登半島東北端の激甚災害被災地、珠洲市へ派遣されました。

井田病院では日頃より健診から診断・治療・緩和ケア・在宅医療までシームレスな医療提供体制を地域医療機関と連携して構築する一方で、今回のような突発的な緊急対応に対しても常日頃よりの不断の訓練・準備・教育を続けてきた底力を発揮できたものと感慨深いものがあります。

今年もよろしくご支援のほどお願い申し上げます。

頭皮冷却装置を導入しました！

最近、化学療法においてアピランスケアが重要視されています。容姿をなるべく損なわないように治療を継続するために、最も課題となっているのが「脱毛」です。

当院では「頭皮冷却装置PAXMAN[®]」を導入し、化学療法による脱毛を軽減させる頭皮冷却療法を行っています。

この頭皮冷却療法は、国内外でさまざまな臨床実験が行われ、完全に脱毛が抑制されるわけではありませんが、約40%から60%の方に脱毛が軽減される効果が証明されています。

頭皮冷却療法をされた方は、脱毛後の再発毛が格段に早くなることが多いです。最後まで続けていただくことで効果が期待できます。

文責：乳腺外科部長 嶋田 恭輔

外来がん治療専門薬剤師の紹介



井田病院は厚生労働省より地域がん診療連携拠点病院に指定され、がん医療に力を入れています。がん薬物療法専門医をはじめ、がん治療に専門的な知識と技能をもった看護師や薬剤師が在籍しております。その中で今回は、私が資格を有する外来がん治療専門薬剤師についてご紹介させていただきます。

この資格の取得の為に、研修への参加、がん化学療法に携わった経験、試験への合格など一定の条件が必要です。また、資格を保持するためには、3年ごとに行われる更新試験に合格する必要があります。日進月歩のがん治療において、より良い治療方法、支持療法が受けられるよう知識のアップデートを心がけています。個々の患者さんにとって最良の治療方法を検討することはもちろんのこと、特に抗がん剤による副作用対策に注力しています。

抗がん剤は、他の医薬品と比較して副作用が生じやすいことが知られています。近年、抗がん剤治療や支持療法の進歩、患者さんの社会生活重視などから治療の場は入院から外来へと移行しています。一方で、入院とは異なり日常生活の中で副作用が起こることもあり、不安に思われる患者さんもいらっしゃいます。そこで、自宅で副作用が起こった場合どのように対応したら良いか、或いはどの程度の副作用であったら病院への連絡、受診を行うべきか等を初回薬剤師面談時にお話ししています。また、外来化学療法室では定期的にカンファレンスを行い、医師や看護師と共有することで、個々の患者さんにとって最良の治療方法や支持療法、生活支援を検討しています。さらに、院外の保険薬局の薬剤師とも治療情報を共有しており、気になる副作用や他院の処方薬で薬の飲み合わせが望ましくない場合など薬局から病院に情報を提供してもらい、より安心な治療を推進しています。

今後も引き続き、治療効果と副作用のバランスを考え、個々の患者さんにとって最良のがん化学療法を検討していきたいと思っております。不安に思う気持ち、困っていることや疑問に思っていることがあれば些細なことでも構いませんので、ご相談ください。

文責：外来がん治療専門薬剤師 内田 昌

災

害

訓

練

を

実

施

し

ま

し

た

当院は、令和4年7月1日付で神奈川県災害拠点病院に認定されました。

災害発生時に備え、日々消防訓練や災害医療訓練を行っています。

令和5年度第1回消防訓練



令和5年10月25日(水)に今年度1回目の消防訓練を実施しました。模擬患者役を設定し、病棟にて火災が発生したことを想定し訓練を実施いたしました。

令和5年11月25日(土)に、災害医療実働訓練を実施いたしました。

新型コロナウイルス蔓延の影響で実働訓練が実施できていなかったため、今年度は4年ぶりに各所属の職員が参加する、大規模な実働訓練を実施することができました。実働訓練を通して発見した課題や改善点を今後の災害医療に活かしていきたいです。

令和5年度井田病院災害医療訓練



南部医療圏病院連携訓練&川崎市立3病院ヘリコプター搬送訓練

令和5年12月10日(日)には、川崎市健康福祉局保健医療政策部主催の南部医療圏病院連携訓練に参加しました。同日には消防局との川崎市立3病院ヘリコプター搬送訓練も実施されました。災害時においてヘリコプターを使用しての患者搬送を想定し、院内での連絡調整、搬送元や搬送先病院との連絡調整も含め訓練を行いました。



先日能登半島沖地震が発生しましたが、関東圏でも災害がいつ起こるかわかりません。日々消防訓練や災害医療訓練を通して災害発生時に備えていきたいと思っています。

文責：庶務課 久保

ブロッコリーを提供しました♪

食養科では12月7日に今年度3回目となる市内産野菜の提供を行いました。昨年度に引き続き今が旬のブロッコリーをごま和えにして提供しました。ごまの風味で減塩に、茎の部分も使って食品ロスの削減に取り組みました。



患者さんからは「ブロッコリーはいつも芯を捨てていたが、とてもおいしくいただけた。」「コスト面で大きく負担にならないなら積極的に活用してほしい。」「病院食の新しい楽しみ方が味の深さを通して感じられた。」など30を超える意見をいただきました。

食材費の高騰もありますが、献立の工夫、食品ロスを抑えながらこの取り組みを継続していきたいと考えています。

文責：食養科 亀山



災害時の感染対策について

令和6年能登半島地震で被災された皆様に一日も早く平穏な生活が戻ることをお祈りいたします。

被災地ではコロナ、インフルエンザ、感染性胃腸炎が流行しているニュースを耳にします。

災害時には、感染症の拡大リスクが高まります。

特に避難所では、衛生状態を保つことが大切です。飛沫感染や空気感染による感染拡大する恐れがあるため、感染症に「自分がかからない」ように手洗いを、かかっても「他人にうつさない」ために咳エチケットを行いましょう。



ご家庭でも非常食や飲料水などだけでなく、感染予防のため、マスクや手指消毒用アルコールなども事前に非常用持ち出し袋に入れておくようにしましょう。

文責：感染対策室 福島

屋外美化活動を実施しました

12月19日(火)に病院周辺の清掃を行いました。昨年度に引き続き、病院長、副院長をはじめとする多くの病院職員が参加しました。落ち葉がたくさん集まり、綺麗になりました。文責：庶務課



発行責任者 田中 良典
川崎市中原区井田2-27-1

編集 川崎市立井田病院 ホームページ・広報委員会
電話 044-766-2188 (代表)